

～宜野湾市平和大使育成事業～

平和の尊さを次世代へつなぐ



宜野湾市では、平和の大切さを次世代へ継承できる人材育成を目的とした「宜野湾市平和大使育成事業」に取り組んでいます。令和8年度は、市内中学生8名と青年層1名の計9名を宜野湾市平和大使に任命しました。今回、県内で行った事前研修、広島県での県外派遣研修の様子をご紹介します。

■ 事前研修(7月23日・24日)

7月23日と24日の2日間にわたり、沖縄戦や平和発信の方法について学習しました。

7月23日は、市立博物館の平敷館長より、嘉数の戦闘、宜野湾の戦争被害などについて学びました。午後には、琉球放送(RBC)の上江洲まりの氏を講師に迎え、取材・記録の方法を学ぶ「発信レクチャー」を受講。「伝える力・発信する力を高める」をテーマに、インタビュー手法や取材の姿勢、見る人に伝わる動画の構成方法などを実践的に学びました。

翌24日は、東京から来沖した千代田区平和使節団の皆さまと合同で、西普天間住宅地区跡にある戦時中に市民が避難した洞窟「フトウキアブ」や嘉数高台公園の戦跡を巡り、共同研修を行いました。午後は交流会を開き、お互いの地域について意見交換をしながらフィールドワークの学びを振り返り、平和への思いを共有して絆を深めました。



① 館長の解説を聞く平和大使



② 発信レクチャー



③ フトウキアブ洞窟体験(西普天間)

■ 県外派遣研修(8月4日～6日)

8月4日～6日の3日間、宜野湾市平和大使を被爆地「広島」へ派遣しました。

8月5日は、ヒロシマ平和ガイドクラブB.P.B.様の案内のもと、原爆ドームや平和記念公園を見学しました。広島市青少年センターでは、山陽女学園高等部の皆さまと「私達が学んでいる平和」、「私達が取り組んでいる平和」をテーマにそれぞれの活動内容を発表したあと、原爆投下時の広島の状況をVRゴーグルで疑似体験し、一瞬にして平和が破壊された原爆の実相を学びました。また、おりづるタワーを訪れ、平和への祈りを込めて折った折り鶴を「おりづるの壁」へ投入しました。

同日午後には、「第2回全国平和学習の集い」に参加し、被爆体験証言者である笠岡貞江さん(12歳の時に爆心地から3.5kmで被爆)の貴重な講話を受講しました。その後、全国から集まった青少年たちと「私たちができる平和を築く行動」をテーマにディスカッションを行い、交流を深めました。見学した平和記念資料館では、爆風や熱線による甚大な被害の展示に触れ、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。

8月6日の午前は、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列。世界中から多くの人々が平和を祈る厳かな会場で、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて黙とうを捧げました。午後以降の山口県岩国市での研修日程は台風のため惜しくも中止となりましたが、帰りの岩国錦帯橋空港では岩国市職員の皆さまにあたたかく見送られ、無事に帰沖しました。



④ 広島原爆ドーム前



⑤ 全国の青少年と平和について話し合う



⑥ 広島平和記念資料館

■ 今後の活動

平和大使が研修で学んだことを、各中学校での平和学習ワークショップや11月の市民向け平和イベント、また制作するショートムービー等を通して広く発信していく予定です。